

幸せな人生のしめくくり

10月8日

申命記 32:48~ 52、 34:4~8

1. モーセは、120歳で神の命令でネボ山に死んだとあります。その時、目もかすま
ず活力も失せていなかったとあります。今日は、モーセの死から学びたいと思います。
私は、以前には120歳というのは大変な年だと思っていました。
2. ところが、先月の15日に厚生労働省が、100歳以上の高齢者が全国で6万80
000人いると発表しました。さらに、今年度100歳になる人が、3万2000人おる
そうです。最高齢は、117歳ということで、モーセとほぼ同じですね！
今後さらに増えていくそうです。驚いたことにその90%が女性だそうです。政府も「人
生100年時代構想会議」なるものをスタートさせたそうです。大変なことですね！モ
ーセのように、“目もかすまず、活力も失せていなかった”ようだといいですね。
3. さて、モーセは、神様から2つのことを命じられていました。①イスラエルの民を
神の意志を实践する民とすること ② 神の約束の地、カナンに民を導くことです。
モーセは、目もかすまず活力もあるのに、さらにまだ目的が達成できていないのに、神
はどうして彼に死を命じたのでしょうか。しかもカナンの地を山からみせただけで？
4. その理由として、民数記20:7~12には、次のようにあります。
主は、モーセに仰せになった。あなたは、杖を取り、兄弟アロンと共に共同体を集め、
彼らの目の前で岩に向かって、水を出せと命じなさい。あなたは、その岩から彼らのた
めに水を出し、共同体と家畜に水を飲ませるがよい。モーセは命じられたとおり、主の
御前から杖を取った。そして、モーセとアロンは、会衆を岩の前に集めて言った。反逆
する者らよ、聞け。この岩からあなたたちのために水を出さなければならないのか。モ
ーセが手を上げ、その杖で岩を2度打つと、水がほとぼしり出たので共同体も家畜も飲
んだ。主はモーセに向かって言われた。あなたたちは私を信ずることをせず、イスラ
エルの人々の前に、わたしの聖なることを示さなかった。それゆえ、あなたたちは、この
会衆を私が彼らに与える土地に導き入れることはできない。
5. 「岩に向かって水を出せ」と命ずるのと「岩に向かって杖で2度打つ」ことに大きな違
いはあるのでしょうか？小さな違いのように見えます。本当にこの理由で神はモーセ
に死を命じ、カナンの地に入れなかったのでしょうか？神の命令で、40年間も
不平不満の民を導くのに苦労してきたのに、最後はこんなことでいいのでしょうか！
6. この解釈として、神の命令は絶対なのだから、その通りにしないとだめであり、右にも
左にもそれではならない。神の意志は我々には理解できないこともあるのだ。

7. あるいは、モーセは、過去において、民が水を欲しいと騒いだ時に、神の命令により杖で岩をたたき水を出したという、同じような状況のときにした過去の成功体験があったので、同じことをしてしまった（出エ 17：1～7）。神は、命じた通りでなく、つい彼が過去に成功した経験と同じことをしたので、これを見て神はモーセの衰えを感じた。しかもヨシヤという後継者も育っていたから、交代時だと思ったのでたというものです。たしかに、そういうことも考えられますが、これもしっくりきません。
8. モーセは、神の命令を実現できず失敗したのでしょうか？モーセは、人生の最後の時、神への賛歌（申命32）を歌い、長く不平不満ばかり言って苦勞させられた民を祝福しています。神への感謝と民の祝福を願う祈りは、満足した素晴らしい最後ではないでしょうか！神も、モーセが40年に及ぶ神への献身から民を導いてきたことを、もう十分な働きをしたと思っていたのではないのでしょうか。民も、モーセを信頼していたから不平不満を言ったのでしょうか。民がモーセの死後30日間、悼んで泣き、喪に服したとされているのは、どんなにか信頼されていたことの証です。モーセも民のために取りなしながら、頼られていることに生きがいを感じていたはずで、モーセは、いつも神の命令を聞きつつ、民を導くという献身の、仕える一生だったのです。神もモーセを祝福し、彼の人生を幸せなものとして終わらせているのだとおもいます。だから、モーセは苦しめられた民へは恨みより、赦しと、祝福を、神への怒りも、賛美を高らかにしているのだとおもいます。
9. 2か月ほど前に、九州のキリスト教系のホスピス病院で、徳永さんという方はなしを聞きました。15年ほど前に、がんで、亡くなった方です。64歳だったそうです。余命半年と宣告され、ホスピスに入院し、そこで導かれ受洗し、1年後に亡くなったそうです。入院中に93歳の父親が、末期がんになり、同じホスピスで同室に入院されたそうです。人生ではじめて親子が、ゆっくり語り合う機会になったそうです。父親は、救世軍のクリスチャンだったそうです。父親は、子に死を迎える手本を見せるからお前も同じようにすればいいと言っていたそうです。また、父親は、息子が高校時代に帰宅が遅くなったのを理由も聞かず怒鳴り上げたことがあったそうです。それが長い間心に引っかかっていたそうです。それを息子に謝ったそうです。それを聞き、息子は涙ながら許したそうです。そして息子の前に見本を示して静かに亡くなったそうです。ホスピスの前に小学校があり、命の授業というのがおこなわれており、ホスピスにきて患者や、医師の話聞いていたそうです。ある時徳永さんが子供たちに話すことになったそうです。それを通じ子供たちとの交流がはじまり、子供たちは機会を見て見舞いに来てくれ、また、子供たちの行事にも招待され出席していたそうです。子供たちは毎日、今日は元気だろうか、死んでいないだろうかと心配していたそうです。そこで徳永さんは、毎朝学校から見えるように、黄色いタオルを病室のベランダのところに掲げたそう

コメントの追加 [岩淵勲1]:

です。子供たちはそれをみて、今日も大丈夫だと話していたそうです。ある時、タオルが汚れたので洗濯をしたそうです。それでその日は、ベランダにタオルを掲げなかったそうです。それを見た、小学生たちは死んだと思い先生に連れられて大勢で病院にきたそうです。

徳永さんは、子供たちが本当に自分を心配してくれていることに涙して感激したそうです。子供たちの卒業式にも招待され喜んで出席し、とても励みになったそうです。このことを毎日新聞のカメラマンがきき、徳永さんの入院状況から死までの写真が毎日新聞に掲載され大評判になったそうです。

10. モーセは、40年という長い年月、神と対峙しながら神の命令どおりに民を導くことを全身全霊で一生涯懸命にやってきました。そのため、彼の指導力も限界に来ていたのかもしれない。ヨシヤという後継者も育ってきたので、神様はモーセにお前の働きは十分だと言っているのではないのでしょうか。

モーセが、常に神と対峙し、怒りをぶつけたりしつつ、神の御心をたえず聞きつつ、民を導いたこと、さらに自分を必要としている民を愛していたのだと思います。だから、モーセは最後に、神を賛美し、民を祝福しているのです。イエスさまが、十字架上で「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」といい、すべての人の罪を赦したように、モーセも、民に対し同じようなきもちではなかったのではないのでしょうか。恵により、罪赦されている私たちも、他の人々の、そして自分の罪をも赦してくださいと願いつつ、復活の主を見上げつつ共に歩みたいものです。

わたしたちも、心の思いが、日々、神のみ心にかないますようにとねがいつつ、しあわせなめくくりができるように、神といつも対峙しつつ、過ごしたいものです。

神様のみ言葉を通じいつも神様と対峙しながら、人を愛することにより人との交わりの輪をひろげてもつこと、他人や自分を赦す度量をはぐくむことが大事だと思います。今週も、神のみ言葉に導かれつつ元気に歩みたいものです。